

補 充 を意図した道德の時間

主題名 「謙虚に他に学ぶ」

内容項目 2-(5) 寛容の心・謙虚

平成26年7月23日(水) 第2学年A組 20名 場所: 2A教室 指導者 宮下 昌志

1 **ねらい** 相手の個性を認め、謙虚に他に学ぼうとする態度を育てる。

2 **資料名** あいつの一言 (出典 広島県教育委員会 「心の元気Ⅰ」 改)

3 主題設定の理由《指導観》

(1) ねらいとする道德的価値について《価値観》

個性とは、一人一人の人間がもつ固有の他ととりかえることのできない独自性である。人間は、たいていの物事についてその全体を知り尽くすことは難しく、自分なりの角度や視点から物事を見ることが多く、個性については短所にばかり目を向けがちである。

中学生の時期は、ものの見方や考え方に違いが現れてくるとともに、個性がはっきりしてくる。そのために、自分の考えや立場に固執し、自分とは違う他者の考えや立場を素直に認めようとせず、わがままを言ったり、寛容さと謙虚さに欠ける言動をとってしまったりすることがある。

個性は、決して一人で伸びるものではなく、他に認められながら伸びるものである。互いのもつ異なる個性を見つけて尊重し、違うものを違うと認め、ときには許す私心のない寛容の心、偏狭なものの見方や考え方のない広い心をもち謙虚に他に学んでいくことが、よりよい人間としての成長を促すために大切である。

(2) 生徒の実態《生徒観》

相手の個性を認め、謙虚に他に学ぼうとする態度を育てるために、学校教育全体で以下のような指導を行ってきた。

① 道德の時間における指導

1年時に内容項目2-(5)「言葉の向こうに」(文部科学省「中学校道德 読み物資料」)を資料として、いろいろなものの見方があることを理解し、情報社会におけるよりよいコミュニケーションのために、相手の立場を尊重することの大切さについて考えた。

② 各教科等での指導

ア 教科指導

国語科では、読書教材「メディアと上手に付き合うために」において、テレビ、新聞、インターネットの三者の特性を読み取る学習を通して、それぞれが長所と気をつけなければならない点の両方を持っており、使う人が自分なりの問題意識をもって情報を読みこなすことの大切さに気付くことができた。

イ 特別活動

学級活動の時間では、「私たちの道德」2-(5)の資料を用いて望ましい人間関係のあり方について考えた。また、昨年度行われた全校生徒参加型の学校保健委員会では、「性格が暗い」と悩む友達に「アサーション」を通して「それって、冷静沈着っていうことじゃない？」と言葉をかけ、性格を多面的に考える見方を学んだ。

③ 日常での指導

生徒の個性は十人十色である。理解の早い生徒と時間のかかる生徒、器用に出来る生徒と一人ではできず支援を要する生徒がいる。学級の係活動や部活動の中では、日頃から互いの考えや立場を理解し、尊重し合うよう指導を行ってきたが、小学校からの変わらぬメンバー構成ということもあり、全員の友達の性格をわかったように決めつけてかわり、仲の良い友達だけでグループを作ってしまう様子が見られる。また、生徒間に暗黙の了解による序列のようなものが存在し、一人一人の良さを生かしきれていない現状がある。

本時の学習では、資料を通して偏狭なものの見方、考え方にならず友達のよさや個性を謙虚に学んでいく姿勢の大切さを学ばせるとともに、自身のこれまでを振り返らせ、謙虚に他に学ぼうとする態度を育てたい。

本時の授業は「補充」を意図して行う。生徒たちはこれまでの授業や生活の中で寛容の心、謙虚さについて十分に学習をつんできたとはいえない。そこで、資料「あいつの一言」で主人公の心情を読み取る活動やアサーショントレーニングを通して、学ぶことの少なかった寛容の心、謙虚さに関する補充を行う。

(3) 資料について《資料観》

実際にあった出来事を文章にしたものであるため、生徒にとって身近に感じられる資料である。主人公の「健太」が「渡辺」に対して偏った見方しかできず、「渡辺」の頑張りに腹を立て、ひどいことを言ってしまう。しかし、「渡辺」から返ってきた言葉は「健太」を思いやる言葉で「健太」の気持ちに変化する様子が描かれている。

「健太」の心情を考えることにより、偏った見方で友達を見るのではなく、多面的な見方で見ることによって相手の良い面、悪い面が見えてくることに気づかせたい。また、普段はなかなか歩み寄らない友達に対して、広い視野で認め合うことについて考えさせたい。

4 補充を意図し、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるための指導の工夫

(1) 道徳的価値について理解するために

- ・ 心情円盤を利用し、主人公の心の変化をとらえることで謙虚に他に学ぶ大事さをわかりやすくする。
- ・ 健太の心情に迫ることで、つい、仲間を見下した発言をしてしまった思いにふれ、価値の実現の難しさを知る。
- ・ 読み物資料の登場人物の心情を考え、班（3～4人）で話し合うことによって、偏った考えを持つのではなく、自分の気付かなかった考えを発見できるようにする。また、その考えにおいても意見を出し合い、広げていく。
- ・ 道徳的価値を理解できるようワークシートを活用し、書く時間をしっかり確保する。また、心の変化が全体でも把握できるようにして、いろいろな考えがあることを教師が把握できるようにする。また、心の変化が全体でも把握できるよう心情円盤を用いる。

(2) 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえるために

- ・ アサーションを通して相手を認めてあげる言葉を自分の価値観をもとに考えられるようにする。これにより自分とのかかわりで道徳的価値をとらえることができる。

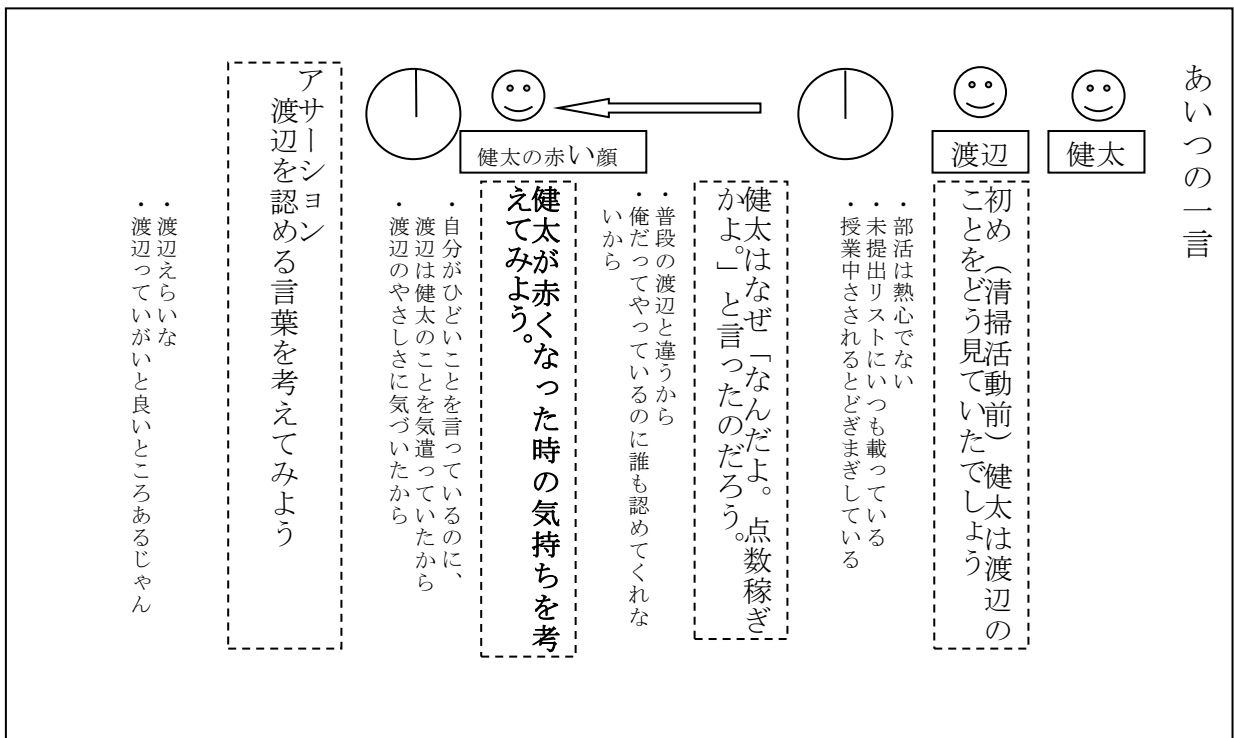
(3) 道徳的価値にかかわる課題を培い人間としての生き方についての自覚を深めるために

- ・ 授業の終末で、自他への尊重を再確認できるよう「私たちの道徳」p.74、75の文章を音読し、自己の生き方についての自覚を深める。

本時の展開

過程	学習活動と発問『 』(◎は中心発問) ・予想される生徒の反応	指導上の留意点(○) 及び評価の観点(☆)
導入 (3分)	1 隣の友だちの性格を心の中でイメージさせる	○一つだけでなく、いくつか考えさせる
展開 (45分)	2 資料「あいつの一言」の音読を聞く	
	3 健太の心の動きから自他への尊重がどうやって向上していくのか考えていく ＜価値理解＞＜人間理解＞＜他者理解＞ (1)『初め(清掃活動前)健太は渡辺をどのように見ていたでしょう。』 ・部活は熱心ではない。 ・未提出リストにいつも載っている ・授業中、さされるとどぎまぎしている (2)『健太はなぜ「なんだよ。点数稼ぎかよ」と言ったのだろう。』 ・普段思っている渡辺の姿と違うから ・俺だって渡辺と同じようにやっているのに、誰も認めてくれないから ◎(3)『健太が赤くなった時の気持ちを考えてみよう。』 ・自分が酷いことを言っているのに、渡辺は自分のことを気遣っているのがわかった ・渡辺君のやさしさに気づいたから	○健太の渡辺に対する心情図「何%渡辺を認めているか」も書かせる ○「なんだよ。点数稼ぎかよ。」と言った健太の気持ちを考えさせることにより、健太も認めてほしいことに気づかせたい ○まずは心情図を書かせてみて、変化をとらえさせてからそれを互いに見せ合い互いの考えの違いを出し合いながら、自分の考えを発表させていく ○ここで健太が渡辺のよいところ気づいた瞬間であることおさえる
終末 (3分)	4 自分の生活を振り返る＜自己理解＞ (1)『あなたは、友だちのことを健太のように決めつけで関わっていた経験はありますか。考えてみましょう』 アサーションを行う＜自己理解＞ (2)『「点数稼ぎかよ」ではなく、渡辺を認める言葉を考えてみよう。』 ・渡辺えらいな ・渡辺って意外と良いところあるんじゃない	○この経験は、言いづらいこともあるかもしれないので、自分の思いだけに止める ☆自身の性格や考え方、これまでの生活に照らし合わせて、自分なりの意見を持つことができているか
	5 私たちの道徳 p74 の文章を読み、自他への尊重には何が必要か、改めて考える	○この文章を聞いて余韻を残して終わるようにする

5 板書計画



6 ワークシート

道徳シート

「あいつの一言」

名前 _____

○初め（清掃活動前）健太は渡辺をどのように見ていたでしょう。（心情図）

認めている（青色）

認めていない（黄色）

○健太が赤くなった時の気持ちを考えてみよう。

認めている（青色）

認めていない（黄色）

アサーショントレーニング

○作業が終わったときの渡辺に対しての言葉かけを考えてみよう。

○今日の授業の感想を書いてみよう。

*道徳の時間を振り返ってみよう。

	A 意欲的にできた	B できた	C あまりできなかった	D できなかった
1 資料について、興味を持って読めましたか	A	B	C	D
2 自分の考えを伝えることができましたか	A	B	C	D
3 友だちの考えを聴くことができましたか	A	B	C	D
4 授業の内容について深く考えることができましたか	A	B	C	D